

千代の湯

Chiyonoyu
(東京都目黒区)



外観

東急東横線の乗客はどこかお上品でお洒落だ。そんな雰囲気に見事に符合する銭湯が今回紹介する千代の湯である。千代の湯は、学芸大学駅から徒歩約 3 分のところにある真新しいビル銭湯だ。

ビル銭湯であるが、玄関、ロビー、脱衣所など随所に木材を使用しており、温かい雰囲気になっている。まずは券売機でチケットを購入して、下駄箱の鍵と共にフロントに提出し、ロッカーの鍵をもらおう。

私の場合、大きなカバンを持っていたので、大きなロッカーの鍵を渡された。さすがにフロントの女将さんは客をよく見ている。ロッカーは珍しく木製で、旧字体の大きな漢字で番号が付けられており、普通の大きさのロッカーと縦長の大きなロッカーとがある。ロッカーは全部で 49 個。なぜか中途半端な数だ。よく見ると、一つのロッカーがフロントから脱衣室を覗ける構造になっている。フロント形式になっても、番台の監視機能は健在だったのだ。

脱衣室では木製の椅子約 10 人分が中央に集められており、ここでほてった体を冷やすことができる。この椅子はよく銭湯にある安っぽいものとは異なる。

浴室は様々なタイルがちりばめられた空間だ。その色はピンクと水色が基調。どこか優しくまるやかな気分にさせられる色あいである。

洗い場は 20 か所。シャワーブースは 1 か所。浴槽は電気風呂、座風呂、ボディーマッサージ、気泡風呂（以上湯温 45℃と表示されているが、適温）、炭酸泉（湯温 39℃で、ぬるめ）、水風呂（水温 21℃）となっている。

座風呂は大人用と子供用がある。しかし、子供用の左の肘かけの向こう側には電気風呂の電極がある。うっかり手を入れたらビリビリッと来るので要注意だ。その電気風呂にはひと工夫がある。電極は腰を浴槽の底部に置けば肩の高さに、腰をベンチの上に置けば腰の高さに来る。一方、炭酸泉は個室のような空間になっており、ゆったりとくつろげる。

ペンキ画は男湯側が中島氏の描いた赤富士だ。これはライブ形式にてわずか 2 時間半で描かれたものだという。女湯側は丸山氏の作品だそうだ。できれば週替わりで男湯と女湯を入れ替えてほしいものだが・・・。

学芸大学の駅前は賑やかな商店街だ。この喧噪を抜け、再び東横線に乗る。千代の湯は東横線沿線に似つかわしい上品でおしゃれな銭湯であった。

- **名称**：千代の湯
- **所在地**：東京都目黒区鷹番 2-20-3
- **電話**：03-3712-1271
- **営業時間**：15：30～25：00
- **定休日**：月曜日
- **入浴料**：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材日**：2013 年 6 月 28 日（金）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部